

インフルエンザ様疾患病原体サーベイランス

2022/2023 シーズンは 3 年ぶりとなるインフルエンザの流行や COVID-19 との同時流行が懸念されました。そこで流行の早期探知やインフルエンザ以外の他の病原体の流行状況をとらえる観点から、2022/2023 シーズンについては、インフルエンザ様疾患（38 度以上の発熱かつ急性呼吸器症状（鼻汁、鼻閉、咽頭痛又は咳のいずれか 1 つ以上））の検体も積極的に収集し検査しています（収集検体総数 300 検体 [3 月 2 日現在]）。

インフルエンザウイルスについては、検出状況を埼玉県感染症情報センターのホームページで毎週更新しています（<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/srv-flu.html>）。また SARS-CoV-2 については、ゲノム解析の結果を公開しています

（<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/covid-19.html>）。

インフルエンザウイルス及び SARS-CoV-2 が検出されなかった検体(80 検体[3 月 2 日現在]) について、どのようなウイルスが検出されているかについては図 1 のとおりです。

検体数は少ないですが、80 検体中 35 検体から 41 件のウイルスが検出され（検出率 43.8%）ヒトメタニューモウイルス、RS ウイルス、コロナウイルス HKU1、ライノウイルス、パラインフルエンザウイルス 3 型などが検出されました。コロナウイルス HKU1 は、COVID-19 の原因ウイルスである SARS-CoV-2 よりも以前から風邪の原因ウイルスとして知られているコロナウイルスです。

急性呼吸器感染症の流行ウイルスの把握のためには、一定の検体数の確保が必要です。病原体定点医療機関の先生方には、流行ウイルスの把握のため、引き続き検体採取にご協力をお願いいたします。

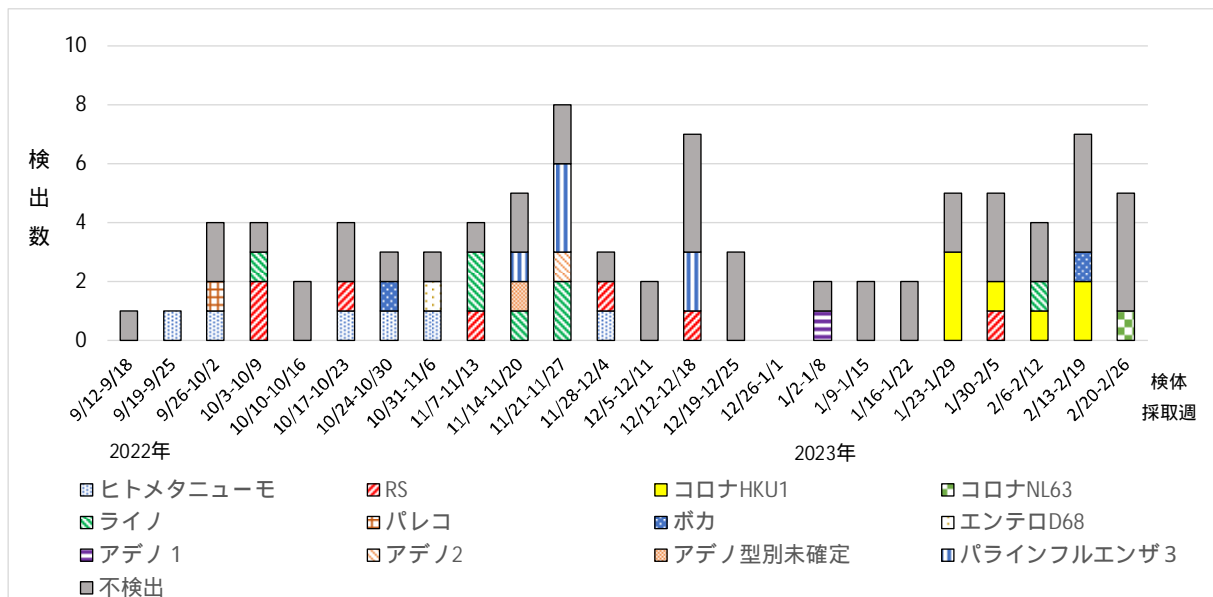


図 1 インフルエンザウイルス及び SARS-CoV-2 以外のウイルス検出状況